

2017年3月期第3四半期決算 説明要旨

株式会社リクルートホールディングス

2017年3月期 第3四半期累計業績について

まずはじめに、当第3四半期のハイライトをご紹介します。

1点目は、業績についてです。

当第3四半期累計期間の業績は、売上高・EBITDAともに2桁の成長となりました。3つの主要セグメントすべてにおいて増収増益と好調に推移しました。

2点目は、配当についてです。

この度2017年3月期の一株当たり配当額の予想を50円から60円へ引き上げました。

これは、配当性向を、従来の「25%程度」から「30%程度」へ変更したことが背景にあります。配当性向については、従前より財務の状況や類似企業との比較を踏まえて総合的に判断し、每期見直してきましたが、この度水準を引き上げることと致しました。また、安定的かつ継続的な配当を目的に、配当原資を従来の「のれん償却前当期純利益」から「のれん償却前当期純利益に一過性の要因を控除した金額」に変更しております。

3点目は、IFRSについてです。

来期中にIFRSに移行することは従前から申し上げておりましたが、2018年3月期の第1四半期から適用を開始いたします。IFRS適用影響の詳細については、通期決算発表時にご説明させていただく予定です。

では、第3四半期累計実績についてご説明致します。

■連結業績サマリ

当第3四半期累計実績は、売上高は、前年同期比14.2%増の1兆3,007億円、EBITDAは13.8%増の1,668億円となり、2桁の増収増益、営業利益についても、前年同期比12.6%増の922億円と好調に推移いたしました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比41.8%増の676億円となりました。

また、当第3四半期より、欧州で人材派遣事業を営むUSG People社の業績の取込みを開始しております。その影響を控除した既存事業ベースでの実績は、EBITDAで10.4%増の1,619億円となっており、こちらも前年同期に対して順調に進捗しております。

■ 販促メディア事業

売上高は、ライフイベント領域が前年同期比 11.5%増、日常消費領域が 3.5%増とともに好調に推移し、販促メディア事業全体では 8.6%増の 2,722 億円となりました。EBITDA は売上高の増加等により、前年同期比 14.8%増の 783 億円となりました。分野別の売上高については、ライフイベントでは住宅分野、日常消費では美容分野 2 桁成長と、当事業をけん引しました。

飲食分野、美容分野のネット予約の指標については非常に好調に推移しており、前年同期比でともに 30%を超える高い成長が継続しております。

また、「Air レジ」の登録アカウント数は、前年同期比 21%増の 26.7 万となりました。従前から申し上げていた通り、第 4 四半期より、レジ機能も含めた複数の機能をパッケージ化し、飲食領域のクライアントを中心に月額課金を開始しております。12 月末時点での契約店舗数は、社内計画を上回る順調なすべり出しとなっております。なお、第 4 四半期のみ売上計上となるため、通期の連結業績に与える影響は軽微となります。

進学分野では、当第 3 四半期末における「スタディサプリ」の高校生向けサービスの有料会員数は 23.7 万人となり、前年同期比で 50%を超えて増加しました。

海外子会社の進捗状況については、Quandoo、Treatwell とともに、予約可能店舗数が引き続き増加しております。Quandoo においては、現時点では、買収当初の想定よりネット予約数の獲得が遅れていることを課題として認識しており、予約ニーズの高い店舗の獲得とユーザー集客に注力することにより、ネット予約数の拡大に取り組んでいます。Treatwell においては、Quandoo と同様の取り組みを行いながら、店舗数のみならず、ネット予約数についても着実に積み上げつつあります。

■ 人材メディア事業

売上高は、国内人材募集及び海外人材募集領域ともに好調に推移した結果、前年同期比 14.6%増の 2,824 億円となりました。なお、海外人材募集領域における為替変動の売上高への影響額はマイナス 97 億円であり、その影響を除いた場合、63.0%の増収となります。EBITDA については、海外人材募集で売上拡大のための積極的な投資を継続するとともに国内人材募集では上半期に競争基盤強化を目的とした先行投資を実行した一方、売上高が好調に推移し、前年同期比 1.3%の 598 億円と計画通りに進捗しました。

■ 人材派遣事業

売上高は、国内外派遣領域が好調に推移したことにより、前年同期比 16.0%増の 7,534 億円となりました。なお、USG People 社の業績寄与は、818 億円となります。

EBITDA については、売上高の増加に加え、主に海外の既存子会社において効率的な経営が順調に進展したことから、24.6%増の 452 億円となりました。

2017年3月期 通期見通しについて

■ 連結業績見通し

通期見通しについては、7月27日に公表した「業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。
なお、2017年3月期の1株当たり配当額の予想を、従来の50円から60円に変更しております。

以上

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。